

資料

早稲田大学法学部百年史資料（その三）

法学部百年史編纂委員会

（四）明治二十三年より明治二十四年

イ 早稲田大学本部書類（和紙手筆）

課程表（明治二十三年）

第一法律科課程表

商	民	法	時	前
法	法	學	間	期
五	二	三	週	年
至第一 第一章 第六 章乃編	英英 私契 犯約	法	一	一
五	二	三	週	後
全	全全	全	週	第
上	上上	上	一	一
八	四		週	前
（英 商法）	財		一	二
至第七 第十二章 乃編	產		週	期
八	四		一	年
（全	全		週	後
上	上		一	二
二	二		週	期
第	債		一	年
三	權		週	前
編	擔		一	三
二	保		週	期
二	據		一	年
全	（全		週	後
上	全		一	三
上	上		週	期
	上		一	年
	上		週	三
	上		一	期
	上		週	年

體操	擬律擬判	羅馬法	簿記學	論理學	國際法	法理學	衡平法	行政法	憲法	刑法	構成法所	訴訟法
二體操		二羅馬法		(論理學)						三刑法		
二全上		二全上		(全上)						三全上		
二全上					一國際私法				二日本憲法			三三 民事訴訟法 刑事訴訟法
二全上					一全上				二全上			三三 全全 上上
二全上	一擬律擬判		(簿記學)		二國際公法	二法理學	(英衡平法)	二日本行政法			二構成法所	二隔週 二時週 (訴訟演習)
二全上	一(全上)		(全上)		二全上	二全上	全上	二全上			二全上	全全 全上

第二法律科課程表

論理學	史學	刑法	行政學	國際法	行政法	憲法	法理學	訴訟法	經濟學	商法	民法	法學通論	時間週一 前第一期年
(論理學)	(上古史)	三刑 法							三經濟 原論	五第一 編	二六人財 事產	三法學 通論	時間週一 後第一期年
(全上)	(中古史)	三全 上							二三貨 幣論	五全 上	二六全 上	三全 上	時間週一 前第二期年
	(近代史)					二日本 憲法		三三刑 事訴訟法	三(應 用經濟學) 財政論	八第一 編	四財 產取得		時間週一 後第二期年
						二全 上		三全 上	三全 (全上)	八全 上	四全 上		時間週一 前第三期年
			二行政 學	二國際 公法	二日本 行政法		二法 理學		三全 (銀行論) 上	二第二 編	二二債 權擔保		時間週一 後第三期年
			二全 上	二全 上	二全 上		二全 上		二全 (貿易 替論) 上	二全 上	二全 上		







八 募集要項 (明治二十四年八月)

本校ハ明治十五年ノ創立ニ係ル爾來九箇年間得業生ヲ出スコト七百有餘名在校學生常ニ一千名ノ上ニアリ其學科ノ如キ當初ハ一邦語政治科、及邦語法律科ノ二科ノミナリシガ其後英語政治、英語法律英語及邦語行政、文學、專修英語、等ノ諸科ヲ漸次増設シ六十九名ノ專門講師現ニ其教授ヲ擔任ス尙ホ本年度ニ於テ更ニ諸大學ノ制ニ則リ一層規模ヲ擴張シ組織ヲ齊整シ全校ヲ政治法律文學ノ三學部ニ分チ各部ノ教務及財務ヲ獨立セシメ且各部擔當ノ講師中ヨリ專任委員數名ヲ舉ゲ其監督タラシム思フニ將來一層ノ良結果ヲ舉ルヲ得シ入學試験ハ來ル九月五日午前九時ヲ以テ施行ス四方有志ノ士速ニ入學アレ

東京專門學校

東京專門學校規則要領

〔前略〕

◎第二章 教旨教則

一、本校ハ政治學、法律學及ヒ英文學ヲ教授スル所トス而ソ法律ノ本邦ニ成典アル者ハ主トシテ之ヲ教授ス

二、本校ニ政治科、第一法律科(司法科)、第二法律科(行政科)、文學科、專修英語科、及ヒ兼修英語科ヲ設ク

但シ政治科、司法科及ヒ行政科ハ各邦語、英語ノ二部ニ分

チ生徒ノ志望ニ依リ邦語若クハ英語ヲ以テ教授ス

三、兼修英語科ハ各邦語科ノ生徒ヲシテ兼修セシムル所ノ學科トス

四、政治科、司法科、行政科、文學科及專修英語科ノ修業年限ヲ三ヶ年ト定メテ各一ヶ年ヲ一級ニ充ツ其學年ハ毎年九月ニ始リ翌年七月ニ終ル又學年ヲ二學期ニ分チテ前期(自九月十一日至二月末日)及ヒ後期(自三月一日至七月二十日)トナス

五、第十章第三條但書ニ相當スル者ニシテ司法科及ヒ行政科ノ得業生トナリシ者ハ高等官登用試験ニ應スルノ資格アル者トス

但シ在學中ト雖モ更ニ高等中學校ノ認定證書ヲ得且ツ既ニ履習シタル正科試験ヲ經ル時ハ同一ノ資格ヲ得ベシ

六、政治科、司法科、行政科、英語文學科及專修英語科ノ課程ヲ定ムルコト別表ノ如シ

〔中略〕

◎校長幹事講師姓名(イロハ順)

校長

鳩山和夫

幹事

文學士 高田早苗

田原 榮

法律學士 磯部四郎  
 米國文學博士 家永豊吉  
 法學士 石塚英哉  
 法學士 井上辰九郎  
 米國法律學士 板屋確太郎  
 法學士 伊藤悌治  
 法學士 石井菊次郎  
 法學士 石原健三  
 法學博士 今井欽太郎  
 法學博士 鳩山和夫  
 伊國法律大博士 パテルノストロ  
 文學士 濱田健次郎  
 法學博士 島山 健  
 法學博士 穂積陳重  
 法學士 戸水寛人  
 米國法律博士 チゾレ  
 法學士 織田 一  
 法學士 奥田義人  
 法學士 落合直文

法學士 加藤高明  
 法律學士 春日 肅  
 理學士 吉田彦六郎  
 文學士 高田早苗  
 法學士 高橋捨六  
 米國法律學士 田中甲子次郎  
 法學士 田中隆三  
 田原 榮  
 橋 槐次郎  
 竹中信以  
 添田壽一  
 文學士 坪内雄藏  
 文學士 中橋徳五郎  
 法學士 宇川盛三郎  
 法學士 内田定槌  
 法學士文學士 デヨンウキグメル  
 吳 文聰  
 法學士 熊田鐵次郎  
 法學士 松崎藏之助  
 法學士 松室 致  
 法學士 松野貞一郎





體操	兼脩英語
二	八
體操	ウエブスター氏綴字書 ニュー、ナショナル 讀本一、二、三
二	八
全上	カッセル氏公民讀本 クワッケンボス氏米國史 ニュー、ナショナル 讀本第四
二	八
全上	スイントン氏萬國史 フォーセツト氏小經濟書 ヂケンズ氏英國史
二	八
全上	ジョンブライト傳 マコーレー氏ヘスチングス傳 フランクリン氏自傳
二	八
全上	ジョンソン氏ラセラス物語 バチオット氏憲法論 スベンサー氏代議政體
二	八
全上	ミル氏代議政體論 ソーシャルサイエンス クリーブランド氏 大家文集

邦語 第二法律科(政行)課程表 (特別認可)

法學通論	三	時間週	前第一期	後第一期	時間週	前第二期	後第二期	時間週	前第三期	時間週	後第三期
民法	六		財產篇	人財產篇	八	財產取得篇	證據篇	三	債權擔保篇	三	債權擔保篇
商法					七	第一篇	第一篇	三	第二篇	二	第三篇
經濟學	四		貨幣論	貨幣論	二	(應用經濟學) 財政論	(應用經濟學) 財政論	二	(銀行論) 財政論	三	(實易論) 爲替論
訴訟法					二	刑事訴訟法	民事訴訟法		(訴訟演習)		(訴訟演習)
裁判所構成法	一		裁判所構成法	裁判所構成法							
法理學								二	法理學	二	法理學
憲法										二	日本憲法

國際法	行政學	刑法	史學	論理學	簿記學	統計學	擬律擬判	兼 脩 英 語	體操
		二		二				八	二
		刑法	(上古史)	論理學				ウニフスター氏 綴字書 ニユー、 ナショナル 讀本一、二、三	體操
		二		二				八	二
		刑法	(中古史)	論理學				カッセル氏 公民讀本 クワッケンボス氏 米國史 ニユー、 ナショナル 讀本第四	全上
								八	二
			(近代史)				(擬律擬判)	スイントン氏 萬國史 フォーセット氏 小經濟書 デケンズ氏 英國史	全上
								八	二
							(擬律擬判)	ジョン、 ブライト傳 マコーレー氏 ヘスチングス傳 フランクリン氏 自傳	全上
國際公法	行政學						一	八	二
							(統計原論)	ジョンソン氏 ラセラス物語 バヂオット氏 憲法論 スペンサー氏 代議政體	全上
								八	二
							(簿記學)	ミル氏 代議政體論 ソーシャル サイエンス クリ ランド氏 大家文集	全上
	行政學						(統計原論)		二

二 郵便報知新聞(明治二十三年八月四日)

募集公告

來る八月卅一日(午前九時)を以て左の諸科へ新入生を募集す

政治科

(略)

第一及第二法律科(司法及行政科)

(邦語一年及二年前期)

文學科

(略)

東京專門學校

英語普通科及豫科

(略)

法律科は専ら新法典を教授す文學科は本年の新設に係る諸科擔任講師姓名左の如し

法律學士	磯部四郎	法學士	伊藤悌治
米國文學士	茨木宗之	法學士	石井菊次郎
法學博士	鳩山和夫	伊國法律大博士	パテルノストロ
法學士	戸水寛人	米國法律博士	チゾレ
法學士	織田一	法學士	岡崎正也
文學士	高田早苗	法學士	高橋捨六
文學士	高橋五郎	米國法律學士	田中甲子次郎
文學士	添田壽一	文學士	坪内雄藏
	宇川盛三郎	法學士	内田定穂
法學士	熊田鐵次郎	法學士	松野貞一郎
法學士	江木衷	文學士	天野爲之
法學士	有賀長文	法學士	朝倉外茂鐵
米國法律學士	澤田俊三	文學士	澤柳政太郎
法學士	三宅恒徳	文學士	三宅雄二郎
	三島中洲	文學士	下山寛一郎
	信夫恕軒	法學士	平田讓衛
	森鷗外	法學士	森田思軒
法學士	關直彦	法學士	關野正直

法學士 鈴木充美

米國法律學士 板屋確太郎

法學博士 穗積陳重

落合直文

橘 槐次郎

吳 文聰

文學士 有賀長雄

法學士 木内重四郎

法學士 柴田家門

森 槐南

佛國法律博士 本野一郎

法學士 芹澤孝太郎

木 郵便報知新聞(明治二十三年十月五日)

募集広告

東京專門學校募集廣告

(前略)

政治、司法、行政科、受持講師(姓名イロハ順)

財產篇、刑法、治罪法 法律博士 磯部四郎

證據篇、時効、裁判所構成法 法學士 伊藤悌治

組合法 米國法律學士 板屋確太郎

近代史 米國文學士 茨木宗之

賣買、信用	法學士 石井菊次郎	羅馬法、海商、擬律擬判	法學士 朝倉外茂鐵
英國憲法	法學士 石塚英藏	訴訟演習	米國法律學士 澤田俊三
國際公法	法學博士 鳩山和夫	貿易論、心理學	文學士 澤柳政太郎
各國憲法	伊國法律大博士 パテルノストロ	判決例	法學士 三宅恒德
法理學	法律博士 穗積陳重	論理學、社會學	文學士 三宅雄次郎
英國私犯法、債權擔保	奧田義人	憲法史、上古史	文學士 下山寬一郎
日本憲法	法學士 織田一	物權	法學士 柴田家門
商事代理、國際私法	法學士 岡崎正也	人權、商事契約、英國契約法、 英國商法	法學士 平田讓衛
法學通論、商法首部	米國法律學士 田中甲子次郎	撰學法	佛國法律博士 本野一郎
國家論	文學士 高田早苗	英國衡平法	法學士 芹澤孝太郎
應用經濟學	文學士 添田壽一	法理學	法學士 城數馬
財產取得、破産、英國證據法	講師 中橋徳五郎	民事訴訟法	法學士 鈴木充美
上古史、中古史	文學士 坪内雄藏	文學科學持講師	
統計原論	講師 吳文聰	(下略)	
日本行政法	講師 宇川盛三郎		
流通證書	法學士 小出仰太郎		
財政篇	法學士 松崎藏之助		
國法論、行政學	文學士 有賀長雄		
考證經濟學	文學士 有賀長文		
經濟原論、經濟史、銀行論、 爲替論、經濟研究法、貨幣論	文學士 天野爲之		
交通行政法	法學士 天野喜之助		

〔木に同じ〕  
 朝野新聞（明治二十三年十月五日）  
 募集廣告

(五) 明治二十四年より明治二十五年

イ 東京遊學案内 黒川安治(明治二十五年七月)

◎東京専門學校

本校は政治學、法律學、及び英文學を教授する所とす。  
 教科を分つて政治科、第一法律科、第二法律學、文學科、專  
 修英語科、及兼修英語科となし、修業年限は各々三ヶ年とな  
 す。但し兼修英語科は各邦語科の生徒をして兼修せしむる學科

英邦語 司法科

なれば茲に特立の一科として別に設けたるものにはあらず。政  
 治科、第一法律科、第二法律科は邦語英語の二部に分ち、生徒  
 の志望に依り邦語若くは英語を以て教授せり。第一法律科は又  
 司法科といひ、第二法律科は行政科といふ。  
 各學科の科目課程は左の如し。但し司法科、行政科は特別認  
 可に屬すれども、政治科、文學科、及英語科は全く特別認可規  
 則の範圍以外に超然として各純然たる専門科をなし、其教科の  
 整然として種々の原素に富みたるは他に觀るべからざる所なり

學科	學級		學科	學科	學科	學科
	前期	後期				
法學通論	法學通論、法例、民法通論	民法通論	民法通論	民法通論	民法通論	民法通論
民法	財產契約法篇	財產私犯法篇	財產取得篇	證據取得篇(英國證據法)	債權擔保篇	債權擔保篇
商法			第一二篇(英國商法)	第一二篇	第三篇	第三篇
訴訟法			刑事訴訟法	刑事訴訟法	民事訴訟法	民事訴訟法
裁判所構成法					民事訴訟法演習	民事訴訟法演習

刑 法	憲 法	行 政 學	衡 平 法	法 理 學	國 際 法	論 理 學	簿 記 學	羅 馬 法	擬 律 擬 判	兼 修 英 語	體 操
刑 法						論 理 學				綴 字 書	體 操
刑 法						論 理 學				公 民 讀 本	全 上
								擬 律 擬 判	萬 國 史	小 經 濟 史	全 上
								擬 律 擬 判	自 傳	自 傳	全 上
		行 政 學	英 衡 平 法	法 理 學	國 際 私 法		簿 記 學	羅 馬 法	擬 律 擬 判	憲 法 論	全 上
	日 本 憲 法	行 政 學	英 衡 平 法	法 理 學	國 際 私 法		簿 記 學	羅 馬 法	擬 律 擬 判	代 議 政 論	全 上

英邦語行政科

學科	學級		學科	憲法	國際法	行政學	刑法	史學							
	前期	後期													
第一級	前期	後期	法學通論 民法通論、法例、 民法通論	財產篇	財 產 篇	商 法	財 政 學 論	訴 訟 法	裁 判 所 構 成 法	法 理 學	憲 法	國 際 法	行 政 學	刑 法	史 學
	前期	後期	民法通論	人 財 事 產 篇 篇	經 濟 幣 原 論 論	經 濟 幣 原 論 論	裁 判 所 構 成 法	裁 判 所 構 成 法	裁 判 所 構 成 法	裁 判 所 構 成 法	裁 判 所 構 成 法	裁 判 所 構 成 法	裁 判 所 構 成 法	刑 法	中 古 史
第二級	前期	後期	民法通論	財 產 取 得 篇	第 一 二 篇 篇	財 政 學 論	財 政 學 論	刑 事 訴 訟 法	刑 事 訴 訟 法	刑 事 訴 訟 法	刑 事 訴 訟 法	刑 事 訴 訟 法	刑 事 訴 訟 法	刑 事 訴 訟 法	近 代 史
	前期	後期	民法通論	證 據 得 篇 篇	第 一 二 篇 篇	財 政 學 論	財 政 學 論	刑 事 訴 訟 法	刑 事 訴 訟 法	刑 事 訴 訟 法	刑 事 訴 訟 法	刑 事 訴 訟 法	刑 事 訴 訟 法	刑 事 訴 訟 法	近 代 史
第三級	前期	後期	債 權 擔 保 篇	第 三 篇	財 政 行 論 論	財 政 行 論 論	民 事 訴 訟 演 習 法	民 事 訴 訟 演 習 法	民 事 訴 訟 演 習 法	法 理 學	法 理 學	國 際 公 法	行 政 學	行 政 學	
	前期	後期	債 權 擔 保 篇	第 三 篇	財 政 替 易 論 論	財 政 替 易 論 論	民 事 訴 訟 演 習 法	民 事 訴 訟 演 習 法	民 事 訴 訟 演 習 法	法 理 學	法 理 學	日 本 憲 法	行 政 學	行 政 學	

論理學	論理學	論理學					
簿記學						簿記學	簿記學
統計學						統計原論	統計原論
擬律擬判				擬律擬判	擬律擬判	擬律擬判	擬律擬判
兼修英語	ウエブスター氏綴字書 ニュー、ナショナル 讀本一、二、三	カッセル氏公民讀本 クワッケンボス氏米國史 ニュー、ナショナル 讀本第四	スイントン氏萬國史 フォーセツト氏小經濟書 ヂケンズ氏英國史	ジョン、ブライト傳 マコーレー氏ヘイスチングス傳 フランクリン氏自傳	ジョンソン氏ラセラス物語 バチオツト氏憲法論 スペンサー氏代議政體	ミル氏代議政論 スペンサー氏ソーシャルサイエンス クリーブランド氏大家文集	
體操	體操	全上	全上	全上	全上	全上	全上

學年は毎年九月に始まり翌年七月に終る。又學年を二期に分ち、前期は九月十一日より二月末日に至り、後期は三月一日より七月二十日に至るものとす。

入學試験は毎年九月、二月、七月に於て行ふ。但し中途入校を乞ふ者は假入校を許し、傍聽生として入校試験の期日を待たしむ。各英語専門科第一年級に入學せんと欲する者は專修英語科を卒業したる者、若くは之と同等の學力ある者たるべし。各邦語専門科第一年級に入學せんと欲する者は左の入校試験を経たる者たるべし。

國語 漢字交文 漢文 日本政記 正文章軌範の類講讀

入校せんとする者は年令滿十七年以上たるべし。但し專修英語科へは滿十四年以上ならば入學を許すべし。入校の際は束脩として金壹圓を納むべし。各學科一學年間の學費を定むること左の如し。但專修英語科第一年級第二級は前期を六圓とし後期を五圓とし、第三年級は前期を九圓とし後期を七圓五十錢とす。

前期 金拾円 後期 金九円

學期の始めに於て學費を前納し得ざるときは毎月三日を限り

之を分納することを得しむ。各邦語科の生徒にして兼修英語科を修むるも別に學費を要せず。本校寄宿舎に入る者は毎月左の費用を納むべし。

舍費 金四十錢 月俸 金二百八十錢

各學科に要する英語教課書は凡て之を貸與すべし。専修英語科及び兼修英語科は總て手数料を納むるを要せず。

尚本校にても校外生を置いて、講義筆記を頒布せり。講義録は政治科、司法科、及行政科の三科となし、各科毎週一回發兌す。校外生を望む者は束修金五十錢を納め、講義録の費用として毎月三十八錢を納むべし。此講義録は政治及法律科にのみ止

◎法學部課程表

法律科課程

課目	第一		第二		第三	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
通論學	法學通論 (論各)	法學通論 (論各)				
法學	民法大要	商法大要 刑法大要 民法訴訟法 民刑訴訟法				
人事篇(全)						
財產取得篇(自相續至夫婦財產契約)						
財產取得篇(自總)						
財產取得篇(自射倖契約至仕事請負)						

りしが、近來に至り本校より「早稻田文學」を發行して、以て文學科の機關に供し、兼て當代の文運を進むることに盡力せり。本校は特別認可學校中校舍の壯麗と土地の閑靜を以て名あるものにて、府下牛込早稻田に在り。學校長は法學博士鳩山和夫にして、天野爲之、有賀長雄、澤柳政太郎、坪内雄藏、大隈英麿等七十餘名の講師を以て當時一千名の生徒を養へり。

口 東京專門學校規則要領 特別 10 1953  
明治二十五年九月改正 改正學課表 各學部担当講師人名表

國法學	擬判律	英國法	法理學	國際法	裁判所構成法	訴訟法	刑法	商法	民法
日本憲法		私犯法					刑法		財產篇 自總 至地上權 人權及義務 總則并ニ義務ノ原因
日本憲法		契約法					刑法		財產篇 占有及地役 義務ノ効力 自消滅并ニ自然義務
國法學 等國法ノ歴史	訴擬訟律演習判	證據法				刑事訴訟法	海商 自船員 至海員	總則并自商人 至代辦人及商業 使用人 商事契約及買賣 手形及小切手	證據篇 證 據 會社 商會 共算商業組合 民事會社
國法學 等國法ノ歴史	訴擬訟律演習判	證據法				刑事訴訟法	海商 自運送契約 至時効	信用及保險 手形及小切手	證據篇 時 會社 商會 共算商業組合 民事會社
行政學 汎行政學ノ 領域ヲ說明 X	訴擬訟律演習判	衡平法	沿革法理學	國際私法 (法例ヲ含ム)	國際公法	裁判所構成法	民事訴訟法	破産 自破産宣告 至財團管理 及換價	債權 擔保篇 對人擔保
行政學 各政務、財 交ノ名部	訴擬訟律演習判	衡平法	沿革法理學	國際私法 (法例ヲ含ム)	國際公法	裁判所構成法	民事訴訟法	破産 自債權者 至支拂猶豫	債權 擔保篇 物上擔保



經濟學 財政學	國法學	擬判律	法理學	公國 法際	裁判所 構成法	訴訟法	商法	財產篇 總則并二義 務ノ原因
論貨幣 循環流通ノ 原理	日本憲法							財產篇 總則并二義 務ノ原因
貨幣論 紙幣及信用 證券等	日本憲法							財產篇 自然義務 及消滅并二 義務ノ効力
財政論 歲出入總論 租稅論	國法學 及其作用 國法ノ歴史 等	擬判律 訟演習判				刑事訴訟法	海商 自船員 至海船員	會社 共算商業組合 民事會社
財政論 租稅論	國法學 及其作用 國法ノ歴史 等	擬判律 訟演習判				刑事訴訟法	海商 自運送契約 至時効	會社 共算商業組合 民事會社
財政論 公債論	行政學 （論區域ヲ 明ス） 行政學ノ 性質及其 （論司法、 軍務、財 政ノ各部 交ノ各	擬判律 訟演習判	分析法 理學	國際私法 （法例ヲ 含ム）	國際公法	民事訴訟法	破產 自破產宣告 及換價 至財產管理	
財政論 歲計豫算論	行政學 （論司法、 軍務、財 政ノ各部 交ノ各	擬判律 訟演習判	分析法 理學	國際私法 （法例ヲ 含ム）	國際公法	民事訴訟法	破產 自債權者 至支拂猶豫	

哲學	論文	體操	兼修英語	參考課
論理學 〔形式的論 理學因明〕		體操	ウエブスター氏 綴字書 ニユール、ナシヨナル 讀本一、二、三	條件事論 損害賠償法
論理學 〔歸納法等〕		體操	カッセル氏 國民讀本 クワッケンボス氏 米國史 ニユール、ナシヨナル 讀本第四	證據法原理解釋學
論文演習	論文演習	體操	スイストン氏 萬國史 フォーセツト氏 小經濟書 ヂッケンズ氏 英國史	比較法理學 制法論
論文演習	論文演習	體操	スイントン氏 萬國史 クライブ傳 ヂッケンズ氏 英國史	英國裁判所構成法
論文演習	論文演習	體操	ジョンソン氏 ラセラス物語 バヂオツト氏 憲法論 スベンサー氏 代議政體	以上ノ課目ハ概略ヲ示スニ過ギ ズ其他隨時撰定シテ講義ヲ爲ス
論文演習	論文演習	體操	ミル氏 代議政體 スベンサー氏 ソーシャルサイエンス	哲學原理

◎法學部受持講師

法律學士 磯部四郎	法律學士 井上辰九郎	法律學士 馬場愿治	法律學士 奥田義人	法律學士 太田資時	法律學士 高根義人	法律學士 松室致	文學士 天野爲之
法學士 伊藤悌治	法學博士 鳩山和夫	法學士 原龜太郎	法學士 織田一	法學士 高田早苗	文學士 立花銃三郎	文學士 江木衷	文學士 岸小三郎
法學士 水野鍊太郎	法學士 平田讓衛	法學士 伊藤悌治	法學士 石渡敏一	法學博士 和田垣謙三	法學博士 高田早苗	法學士 植村俊平	文學士 江木衷
法學士 城數馬		法學博士 巖谷孫藏	法學博士 鳩山和夫	法學博士 金井延	文學士 土子金四郎	法學士 奥田義人	文學士 天野爲之

科外受持講師

早稻田大学法学部百年史資料

文學士 有賀長雄 ドクトル、イニユリズ  
(ゲツチンゲン大學) 岸 小三郎  
 法學士 平田讓衛 ドクトル、アン、ドロア  
(皇島大學) 本野一郎  
 法學博士 末岡精一

(六) 明治二十五年より明治二十六年

イ 大学本部書類

教員姓名資格書 明治廿五年十二月三十一日調

教員姓名資格書

明治廿五年十二月三十一日調

東京府南豊嶋郡戸塚村大字下戸塚

私立 東京専門學校

教員任用許可年月	資格	族籍	姓名	生年月
明治廿一年八月八日	法學士	鳥取縣士族	奥田義人	萬延元年六月
全	法學士	廣嶋縣士族	吳文聰	嘉永四年十二月
全	法學士	山口縣士族	江木衷	安政四年二月
明治廿一年十月卅一日	文學士	大阪府平民	有賀長雄	萬延元年十月
全	法學士	岡山縣平民	平田讓衛	元治元年三月
明治廿二年七月十二日	法學博士	東京府士族	鳩山和夫	安政三年四月
明治廿三年四月廿八日	法學士	愛知縣平民	織田一	元治元年四月
明治廿四年六月八日	法律學士	福岡縣士族	松室致	安政元年六月
明治廿四年十月廿九日	法學士	静岡縣士族	井上辰九郎	明治元年九月
明治廿四年十月廿九日	法學士	新潟縣士族	伊藤梯治	安政五年六月
明治廿四年十一月十八日	法學士	福島縣平民	馬場愿治	文久元年八月
全	法學士	長野縣士族	原嘉道	慶應三年二月

全		法學士	東京府平民	太田資時	文久二年七月
全		文學士	岡山縣土族	大西祝	元治元年八月
明治廿五年	三月九日	ドク、ヒロツヒル オフ、ヒロツヒル	福岡縣土族	家永豐吉	文久二年十月
全		文學士	佐賀縣土族	天野爲之	安政六年十二月
明治廿五年	七月二日	文學士	東京府土族	長澤市藏	文久二年七月
明治廿五年	十一月十六日	法學士	福岡縣土族	高根義人	慶應三年七月
全		文學士	福岡縣土族	立花銃三郎	慶應三年五月
全		ドク、ヒロツヒル イユリトズ	岐阜縣土族	岸小三郎	安政四年十一月
全		法學士	東京府土族	水野鍊太郎	明治元年一月
明治廿一年	八月八日	文學士	東京府平民	坪内雄藏	安政六年五月
全		文學士	東京府平民	田原榮	安政五年三月
全		文學士	新瀉縣平民	今井鐵太郎	文久二年五月
明治十五年	十月廿日	文學士	東京府平民	高田早苗	萬延元年三月
全		オバチ、エロノス オフ、サイエンス	東京府華族	大隈英曆	安政三年九月
明治廿三年	九月一日		新瀉縣土族	島山健	安政五年九月
全			東京府土族	三嶋毅	天保元年十二月
全			東京府平民	關根正直	萬延元年三月
明治廿四年	十二月四日		佐賀縣土族	大石熊吉郎	元治元年五月
全		ドク、ヒロツヒル オフ、ヒロツヒル オフ、エラ	東京府土族	松平康國	文久三年四月
明治廿四年	十一月六日		新瀉縣平民	齊藤康木	文久元年九月
明治廿五年	九月一日	理學士	福岡縣土族	磯野徳三郎	安政四年二月

全	八月七日	文學士	群馬縣平民	小屋保治	明治元年十二月
全	九月廿六日		栃木縣平民	石川角次郎	慶應三年七月
明治廿五年	五月四日		北海道平民	夏目金之助	慶應三年一月
全	十月一日	文學士	東京府土族	土子金四郎	元治元年四月
全	十二月十六日	法學士	山口縣平民	植村俊平	文久三年十月
全	十二月十四日	ドクトル	東京府華族	本多康直	安政三年四月
明治五年	九月一日		東京府平民	篠野乙次郎	慶應二年十一月
明治廿三年	九月一日		東京府平民	森泰二郎	文久三年十一月
明治廿三年	一月十一日		米國人	スタンレー	當年四十四歲

計四十二人

右之通ニ候也

右學校長

鳩山和夫

口 大學本部書類

御認可願（明治二十五年九月二十三日）

明治二十五年九月廿三日

東京專門學校長  
鳩山和夫

御認可願

文部大臣河野敏鎌殿

今般本校規則別紙之通り改正仕候付御認可被成度此段奉願候也

(英邦) 第一法律科課程表 (各級共一週時間廿四時間以內)

課目	前 期		後 期		前 期	後 期	前 期	後 期
	第 一	第 二	第 一	第 二				
通法論學	通法論學 (法例ヲ含ム) (論各)(論總)		通法論學 (各論) (各論)					
民法	人事篇 全 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇				
商法			海商 (自船員船) 總則并自商人 至代理人及商業 使用人 商事契約及買賣 手形及小切手	海商 (自船員船) 總則并自商人 至代理人及商業 使用人 商事契約及買賣 手形及小切手				
刑法								
訴訟法								
民法	財產篇 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇				
商法			海商 (自船員船) 總則并自商人 至代理人及商業 使用人 商事契約及買賣 手形及小切手	海商 (自船員船) 總則并自商人 至代理人及商業 使用人 商事契約及買賣 手形及小切手				
刑法								
訴訟法								
通法論學	通法論學 (法例ヲ含ム) (論各)(論總)	通法論學 (法例ヲ含ム) (論各)(論總)	通法論學 (法例ヲ含ム) (論各)(論總)	通法論學 (法例ヲ含ム) (論各)(論總)				
民法	人事篇 全 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇				
商法			海商 (自船員船) 總則并自商人 至代理人及商業 使用人 商事契約及買賣 手形及小切手	海商 (自船員船) 總則并自商人 至代理人及商業 使用人 商事契約及買賣 手形及小切手				
刑法								
訴訟法								
通法論學	通法論學 (法例ヲ含ム) (論各)(論總)	通法論學 (法例ヲ含ム) (論各)(論總)	通法論學 (法例ヲ含ム) (論各)(論總)	通法論學 (法例ヲ含ム) (論各)(論總)				
民法	人事篇 全 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇				
商法			海商 (自船員船) 總則并自商人 至代理人及商業 使用人 商事契約及買賣 手形及小切手	海商 (自船員船) 總則并自商人 至代理人及商業 使用人 商事契約及買賣 手形及小切手				
刑法								
訴訟法								
通法論學	通法論學 (法例ヲ含ム) (論各)(論總)	通法論學 (法例ヲ含ム) (論各)(論總)	通法論學 (法例ヲ含ム) (論各)(論總)	通法論學 (法例ヲ含ム) (論各)(論總)				
民法	人事篇 全 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇				
商法			海商 (自船員船) 總則并自商人 至代理人及商業 使用人 商事契約及買賣 手形及小切手	海商 (自船員船) 總則并自商人 至代理人及商業 使用人 商事契約及買賣 手形及小切手				
刑法								
訴訟法								
通法論學	通法論學 (法例ヲ含ム) (論各)(論總)	通法論學 (法例ヲ含ム) (論各)(論總)	通法論學 (法例ヲ含ム) (論各)(論總)	通法論學 (法例ヲ含ム) (論各)(論總)				
民法	人事篇 全 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇	財產篇 自總則 至地上權 財產篇				
商法			海商 (自船員船) 總則并自商人 至代理人及商業 使用人 商事契約及買賣 手形及小切手	海商 (自船員船) 總則并自商人 至代理人及商業 使用人 商事契約及買賣 手形及小切手				
刑法								
訴訟法								

(英邦) 第二法律科課程表 (各級共一週時間廿四時間以內)

通法論學	科目		體操	哲學	國法學	擬判律	英國法	法理學	國際法	裁判所構成法
	前	後								
通法論學 (論各)(論總) (民法ノ大要 (法例ヲ含ム))	第一	一年	體操	論理學 [形式論 因明論]	日本憲法		私犯法			
	第二	一年	體操	論理學 [歸納法等]	日本憲法		契約法			
通法論學 (論各) [民法ノ大要 刑法ノ大要 訴訟法 商法ノ大要 裁判所構成法]	第一	二年	體操	國法學 [國權ノ原理 及其作用 國法ノ歴史 等]	國法學 [國權ノ原理 及其作用 國法ノ歴史 等]	訴訟律 演習判	證據法			
	第二	二年	體操	國法學 [國權ノ原理 及其作用 國法ノ歴史 等]	國法學 [國權ノ原理 及其作用 國法ノ歴史 等]	訴訟律 演習判	證據法			
通法論學 (論各) [民法ノ大要 刑法ノ大要 訴訟法 商法ノ大要 裁判所構成法]	第一	三年	體操	行政學 (汎) [行政學ノ 性質及區 域ヲ說明ス]	行政學 (汎) [行政學ノ 性質及區 域ヲ說明ス]	訴訟律 演習判	衡平法	沿革法 法理	國際私法 (法例ヲ 含ム)	國際公法
	第二	三年	體操	行政學 (各) [內務、財 政、司法、 交ノ各部 外]	行政學 (各) [內務、財 政、司法、 交ノ各部 外]	訴訟律 演習判	衡平法	沿革法 法理	國際私法 (法例ヲ 含ム)	國際公法



國法学	日本憲法	日本憲法	國法学	國法学	行政學	行政學
經濟學	經濟原理	經濟原理	財政論	財政論	財政論	財政論
哲學	論理學	論理學	租稅論	租稅論	公債論	公債論
體操	體操	體操	體操	體操	體操	體操
	貨幣論 貨幣の性質 貨幣の循環 貨幣の流通	貨幣論 單復本位論 紙幣及信用 證券等	歲出入總論	租稅論	公債論	公債論 歲計豫算論
	形式論	形式論	國權ノ原理 國權ノ機關 國法ノ作用 國法ノ歴史	國權ノ原理 國權ノ機關 國法ノ作用 國法ノ歴史	行政學ノ性質及其 行政學ノ區域ヲ說ス	內務、司法、財政、外交ノ各部

八 大学本部書類

御認可願（明治二十五年九月廿日）

今般本校規則中學課表別紙之通り改正任り度開御認可被成下度  
此段奉願候也

（日付を除いて口に同じ）

邦第一法律科課程表  
邦第二法律科課程表  
口に同じ

府南豊嶋郡戸塚村字戸塚六百四十七番地  
私立東京専門學校校長  
鳩山和夫  
明治廿六年八月十一日  
文部大臣 井上 毅殿

二 大学本部書類

御認可願（明治二十六年八月十一日）

專用三九六

私立東京専門學校

御認可願

本月十一日附其校規則改正ノ件認可ス

























マスター、オブ  
ブイニター  
マスタ、オブ  
ブイニター

岸本能武太  
平田讓衛

法学士  
志田鉦太郎

志田鉦太郎  
杉田金之助

以下特別課受持講師名原史料破損

法		科		律		法	
課	目	前	後	前	後	前	後
破産法	破産法	民法	民法	民法	民法	民法	民法
裁判所構成法	裁判所構成法	民法	民法	民法	民法	民法	民法
諸外國法	諸外國法	民法	民法	民法	民法	民法	民法
對照說明法	對照說明法	民法	民法	民法	民法	民法	民法
裁判所構成法	裁判所構成法	民法	民法	民法	民法	民法	民法
對照說明法	對照說明法	民法	民法	民法	民法	民法	民法
刑事訴訟法	刑事訴訟法	民法	民法	民法	民法	民法	民法
第一一篇	第一一篇	民法	民法	民法	民法	民法	民法
第一四篇	第一四篇	民法	民法	民法	民法	民法	民法
破産法	破産法	民法	民法	民法	民法	民法	民法
第五八篇	第五八篇	民法	民法	民法	民法	民法	民法
破産法	破産法	民法	民法	民法	民法	民法	民法
第五八篇	第五八篇	民法	民法	民法	民法	民法	民法

早稲田大学法学部百年史資料

科		政		行		程	
商	法	民	法	憲	法	法	學
		民法總則(新民法第一篇) 物權法(新民法第二篇) 親族法 相續法		日本憲法	法學通論 法學上ノ主要ナル概念即權利ノ義務等ノ觀念ノ大要	前 期	英語及 論 文 英 語 三 年 ヲ 通 ジ テ 邦 語 政 治 科 ニ 同 シ
		民法總則(新民法第一篇) 物權法(新民法第二篇) 親族法 相續法		日本憲法	法學通論 法學上ノ主要ナル概念即權利ノ義務等ノ觀念ノ大要	後 期	論 文 演 習
保 險 法	會 社 法	商 事 契 約	商 法 總 則	債 權 法	新民法第三篇第一 章及第二篇第 四章 一節第三 章及第 四章	前 期	外 國 法 修 正 諸 法 典 ノ 參 照 ト シ テ 適 切 ナ ル 原 書 ヲ 撰 擇 ス
保 險 法	會 社 法	商 事 契 約	商 法 總 則	債 權 法	新民法第三篇第 四章 一節第三 章及第 四章	後 期	外 國 法 修 正 諸 法 典 ノ 參 照 ト シ テ 適 切 ナ ル 原 書 ヲ 撰 擇 ス
商 法 施 行 法	海 商 法	手 形 法	債 權 法	債 權 法	新民法第三篇第 二節第十四 節 一節乃至	前 期	外 國 法 修 正 諸 法 典 ノ 參 照 ト シ テ 適 切 ナ ル 原 書 ヲ 撰 擇 ス
商 法 施 行 法	海 商 法	手 形 法	債 權 法	債 權 法	新民法第三篇第 二節第十四 節 一節乃至	後 期	外 國 法 修 正 諸 法 典 ノ 參 照 ト シ テ 適 切 ナ ル 原 書 ヲ 撰 擇 ス



法律學士	古賀廉造	法律學士	寺尾亨
文學士	有賀長雄	文學士	天野爲之
法學士	栗津清亮	講師	菊池三九郎
マスター、オブ、 アーツ、バチロール、 オブ、ディンテリ	岸本能武太	法學士	平山讓衛
法學士	肥田平次郎	法學士	瀬田忠三郎
ドクトル、 オブ、ロー	杉田金之助	法學士	鈴木宗言
法學士	鈴木英太郎	法學士	鈴木喜三郎
特別課	受持講師（イロハ順）		
文學士	高田早苗	文學士	建部遯吾
文學士	坪内雄藏	講師	根本通明
バチエロール、 オブ、ファイ ンロソフイー	中島泰藏	オプ、 エロール、	松平康國
文學士	松本文三郎	文學士	天野爲之
文學士	有賀長雄	講師	關根正直

(八) 明治三十年（八月）より明治三十一年（十月）

イ 早稲田大学図書館特別資料室所藏

東京専門學校紀要

圖書  
番號  
10  
1947

- ◎本校經歷 本校ハ明治十五年創立以來茲ニ十有六年、得業生ヲ出スコト一千四百餘名、在校學生ハ常ニ二千名ノ上ニ在リ
- ◎本校部門 本校ハ政學、法學、文學、英語、ノ四大學部トス、

政學部ニハ英語政治科、邦語政治科、法學部ニハ法律科、行政科ヲ設ク

〔中略〕

◎法學部ハ民法（民法總則……物權法……債權法……親族法……相續法……民法施行法等）商法（商法總則……商事契約……海商法……會社法……破産法……手形法……保險法……商法施行法等）刑法、訴訟法（刑事訴訟法……民事訴訟法）帝國憲法、行政法、國法學、法例、國際法（國際公法……國際私法）羅馬法等ヲ邦語ヲ以テ平易簡捷ニ學得セシメ又傍ラ外國語ヲ學習セシメ且修正諸法典ノ参照トナルベキ英佛獨ノ原書ヲ教授ス

行政科ハ以上ノ諸法律ヲ教授スル外特ニ經濟學、財政學ノ二科ヲ學習セシム

本學部ノ學生ニ訴訟ノ實習ヲナサシメ辯論ヲ練習セシムル爲メ訴訟演習并ニ討論會ヲ設ク

〔中略〕

◎特別科ハ各學部ノ學生ニ廣ク参照スルノ便宜ヲ與ヘンカ爲メニ各専門學部ノ課目中他學科ノ參考トナルベキモノヲ選擇シ有志ヲシテ隨意攻修セシム

◎科外講義ハ正科ノ外ニ設ケ毎月二回諸専門名家ノ出講ヲ請ヒ正科研修ノ參考ニ資ス

〔中略〕

法律課程

憲法	前年		二年		三年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期
日本憲法	法學通論 法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律權利、義務等ノ觀念ノ大要	法學通論 法學上ノ主要ナル概念即チ國家、法律權利、義務等ノ觀念ノ大要				

一、本校ハ政治學、經濟學、法律學、文學及ビ英語學ヲ教授スル所トス

二、本校ハ政學部、法學部、文學部、英語學部ノ四部ニ分チ、政學部ニハ政治科（英語政治科）、法學部ニハ法律科、行政科、文學部ニハ文學科、選科、英語學部ニハ英語科ヲ設ク

三、英語政治科、邦語政治科、法律科、行政科、文學科ノ修業年限ヲ三ケ年、英語學部ノ修業年限ヲ四ケ年ト定メテ各一ケ年ヲ一級ニ充ツ其學年ハ九月ニ始リ翌年七月ニ終ル、又學年

法學部課程表 明治三十年八月改正

東京專門學校規則要領  
〔前略〕  
◎第二章 教旨 教則

◎指定學校 本校法學部ニ入學シ所定ノ年限閉在學シ卒業シタル者ハ明治二十六年司法省令第十六號判事檢事登用試驗規則ニ依リ其試驗ヲ受クルノ資格ヲ有ス

〔後略〕

ヲ二學期ニ分チテ前期（自九月十一日至二月末日）及後期（自三月一日至七月二十日）トナス

四、本校法學部ニ入學シ所定ノ年限閉在學卒業シタル者ハ明治二十六年司法省令第十六號判事檢事登用試驗規則ニ依リ該試驗ヲ受クルノ資格ヲ有ス

五、英語政治科、邦語政治科、法律科、行政科、文學科、英語學部ノ課程ヲ定ムルコト別表ノ如シ

明治三  
十年度 各學部學課改正概要

◎法學部 新法典ニ準據シテ課目ヲ整備シ民法ニ附屬スル緊要ノ課目ヲ新設ス總シテ授業時間ヲ増加セリ又正課ノ參考ニ資スト同時ニ外國語ヲ修得セシムルノ目的ヲ以テ英佛獨ノ原書ニ就キ教授スルノ設備ヲナセリ

行政法	民法	商法	刑法	訴訟法	破産法	裁判例	法例	國際法	國法學	羅馬法	哲學	擬律擬判	論文	英語及參考課及
	民法總則（新民法第一篇） 親權法（新民法第二篇） 繼承法（新民法第二篇）	商法 會社法 商事契約 保險法	刑法汎論	刑事訴訟法 民事訴訟法		裁判例所構成法（對外國法） 對照說明法	法例	國法學 比較法 憲法原理	羅馬法			論文演習	論文演習	英語及參考課及 （三年ヲ通シテ邦外全上）
	債權法 民法施行法	商法總則 商人ニ關スル通則 會社法 商事契約 保險法	刑事訴訟法 民事訴訟法	刑事訴訟法 民事訴訟法		裁判例所構成法（對外國法） 對照說明法	法例	國法學 比較法 憲法原理	羅馬法			訴訟演習	論文演習	外國法 修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ選擇ス
	債權法 民法施行法	商法總則 商人ニ關スル通則 會社法 商事契約 保險法	刑事訴訟法 民事訴訟法	刑事訴訟法 民事訴訟法		裁判例所構成法（對外國法） 對照說明法	法例	國法學 比較法 憲法原理	羅馬法			訴訟演習	論文演習	外國法 修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ選擇ス
行政法	債權法 （新民法第三篇第一章及第二章第四節第三章及第	手形法 （約東手形、小切手） 海商法 （海上商業ニ關スル一切ノ法規及法理）	破産法 （第五篇） 民事訴訟法 （第八篇）	破産法 （第五篇） 民事訴訟法 （第八篇）		裁判例所構成法（對外國法） 對照說明法	國際私法（時）	國際私法（時）				訴訟演習	論文演習	外國法 修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ選擇ス
行政法	債權法 （新民法第三篇第二章第二節乃至第十四節）	手形法 （約東手形、小切手） 海商法 （海上商業ニ關スル一切ノ法規及法理）	破産法 （第五篇） 民事訴訟法 （第八篇）	破産法 （第五篇） 民事訴訟法 （第八篇）		裁判例所構成法（對外國法） 對照說明法	國際私法（時）	國際私法（時）				訴訟演習	論文演習	外國法 修正諸法典ノ參照トシテ適切ナル原書ヲ選擇ス

課目	法學通論	憲法	行政法	民法	商法	刑法	訴訟法	破産法	裁判所構成法	法例	國際法	國法學	經濟學
前期	法學通論 ル概念即チ國 家、法律、權利、 義務等ノ觀念ノ 大要	日本憲法		民法總則 親族法 繼承法 新民法第一篇		刑法汎論			裁判所構成法 對外國說明法				經濟學 經濟學原論
後期	法學通論 ル概念即チ國 家、法律、權利、 義務等ノ觀念ノ 大要	日本憲法		民法總則 親族法 繼承法 新民法第一篇		刑法汎論			裁判所構成法 對外國說明法				經濟學 經濟學原論
前期				債權法 新民法第三篇第 四章 民法施行法	商法總則 商人ニ關スル通 則 商行為及 通則、買賣、交 互計算、代理、 組合、仲立、問 屋、運送、寄託 會社、各種會 社、組合ノ法規 及 其他 保險法 海上、 火災、 生命、 海上、 其他	刑法各論 刑事訴訟法 至第一 四篇乃 簡				法例	國法學 比較法原理	財政論 租稅論 稅出論	
後期				債權法 新民法第三篇第 四章 民法施行法	商法總則 商人ニ關スル通 則 商行為及 通則、買賣、交 互計算、代理、 組合、仲立、問 屋、運送、寄託 會社、各種會 社、組合ノ法規 及 其他 保險法 海上、 火災、 生命、 海上、 其他	刑法各論 刑事訴訟法 至第一 四篇乃 簡				法例	國法學 比較法原理	財政論 租稅論 稅出論	
前期			行政法	債權法 新民法第二篇第 二章第十四節 民法施行法	海商法 海上商業ニ關ス ル一切ノ法規及 法律 商法施行法	民事訴訟法 至第五 八篇乃 簡		破産法		國際私法 平		財政論 公債論	
後期			行政法	債權法 新民法第二篇第 二章第十四節 民法施行法	海商法 海上商業ニ關ス ル一切ノ法規及 法律 商法施行法	民事訴訟法 至第五 八篇乃 簡		破産法		國際私法 戰		財政論 公債論 豫算論	

哲學	論	英文	特別課
擬律擬判	論文演習	英語及 參考課及 心國 理家 學(學) 心(心)	心國 理家 學(學) 心(心)
	論文演習	全	社 會 學(學) 近世 外交 史(史)
論理學	訴訟演習	外國法	日本文學史(文) 憲法史(史)
形式的論理學		修正諸法典ノ參 照トシテ適切ナ ル原書ヲ選擇ス	英漢 文學 史(文)
論理學(簡 縮)	訴訟演習	外國法	支那哲學史(文)
	訴訟演習	修正諸法典ノ參 照トシテ適切ナ ル原書ヲ選擇ス	國文(文)
論理學	訴訟演習	外國法	修辭學(學)
	訴訟演習	修正諸法典ノ參 照トシテ適切ナ ル原書ヲ選擇ス	

法學部 受持講師(イロハ順)

法學士	井上辰九郎	法學士	石渡敏一	法學士	牧野菊之助	講師	兒島惟謙
講師	今村信行	法學博士	鳩山和夫	法學士	古賀廉造	法律學士	寺尾享
法學士	嘉道	法學士	羽生顯親	法學士	有賀長雄	文學士	天野爲之
法學士	濱田道紀	法學博士	穂積陳重	法學士	栗野清亮	文學士	菊地三人郎
法學士	本多康直	法學士	戸水寛人	法學士	岸本能武太	法學士	志田鉦太郎
法學士	奥田義人	講師	小河滋次郎	法學士	平田讓衛	法學士	肥田平次郎
法學士	岡野敬次郎	法學士	織田一	法學士	瀨田忠三郎	法學士	杉田金之助
法學士	大西祝	特別課	小澤政許	法學士	鈴木宗言	法學士	鈴木英太郎
法學士	岡村司	特別課	勝本勘三郎	特別課	鈴木喜三郎		
法學士	高田早苗	特別課	田中隆三	特別課	高田早苗	文學士	建部遜吾
法學士	副島義一	特別課	土子金四郎	特別課	坪内雄藏	文學士	根本通明
法學士	中山成太郎	特別課	野澤武之助	特別課	中島泰藏	講師	松平康國
法學士	山田三郎	特別課	松室致	特別課	松本文三郎	文學士	天野爲之

文學士 有賀長雄 講師 關根正直

口 九大法律學校大勢一覽 明治三十一年刊

東京專門學校法學部法律科及行政科受持講師（氏名ハイロ

ハ順）

財政論 法學士 井上辰九郎

民事訴訟法及民事訴訟演習 講師 今村信行

刑事訴訟法及刑事訴訟演習 法學士 石渡敏一

裁判所構成法 法學博士 鳩山和夫

海商法及會社法 法學士 原嘉道

債權法 法學士 羽生顯親

相續法 法學士 濱田道紀

議院法及選舉法 法學士 林田龜太郎

民事訴訟法 ドクトル 法學士 本田康直

法例 イニョリリス 法學博士 穗積陳重

羅馬法 法學士 戸水寛人

行政法 法學士 織田一

監獄學 講師 小河滋次郎

刑法各論 法學士 勝本勘三郎

憲法 法學士 高田早苗

憲法 法學士 副島義一

銀行論 文學士 土子金四郎

國際私法 ドクトル 法學士 野澤武之助

商事契約 法學士 岡村司

論理學 法學士 大西祝

物權法 法學士 奧田義人

アンソン契約法 法學博士 小澤政許

親族法 法學士 牧野菊之助

租稅論 法學士 松崎藏之助

刑法汎論及各論 法律學士 古賀廉造

保險法 法學士 粟津清亮

國際公法及國法學 法學士 有賀長雄

經濟原論、歲計豫算論、公債論 文學士 天野爲之

論文演習 講師 菊地三九郎

商法總則及手形法 法學士 志田鉦太郎

債權法 法學士 平田讓衛

民法總則 法學士 瀨田忠三郎

裁判所構成法、債權法、物權法 法學士 鈴木喜三郎

破産法 法學士 鈴木宗言

羅馬法、擬律擬判 ドクトル 法學士 杉田金之助

ハ 早稻田学報 一八号

明治三十一年八月三十一日刊

早稻田記事

一 明治三十一年度本校各學部改正概要

◎政學部（略）

◎法學部

は新法典の法理を準行する目的を以て課目の配置を整理し講師には法典調査會委員高等文官判檢事辨護士試験委員等を増聘し訴訟の實習と辨論の練磨を圖る爲め討論會委員數十名を増加せり。

二本學年増聘したる講師左の如し

- 一 民法總則
- 一 最近世英文學
- 一 國文學
- 一 心理學
- 一 心理學及教育學
- 一 審美學
- 一 手形法
- 一 英語
- 一 國籍法
- 一 海商法
- 一 經濟學

法學士	馬場 愿 治
マスタ、 文 學 士	千葉 鑛 藏
オプ、アーツ、 文 學 士	岡 田 正 美
ドクトル、 オプ、フィロソフィ	渡 邊 龍 聖
文 學 士	金子 馬 治
文 學 士	高山 林 治 郎
法 學 士	竹 内 平 吉
オプ、エロル、 オプ、ロー	大 浦 肇
法 學 士	山 口 弘 一
法 學 士	朝 倉 外 茂 鐵
文 學 士	坂 谷 芳 郎

- 一 債權法
  - 一 債權法
  - 一 商法總則
  - 一 修辭學
- 其他數名

其他數名

三 法學部討論會委員（講師得業生）

左の如し

一 法學士	岡 村 司	一 法學士	小 山 溫
一 辨護士	若 林 成 昭	一 辨護士	竹 内 平 吉
一 辨護士	上 原 鹿 造	一 法學士	牧 野 菊 之 助
一 辨護士	降 旗 熊 次 郎	一 判 事	昆 田 文 次 郎
一 辨護士	小 林 豐 太 郎	一 辨護士	小 山 愛 治
一 判 事	坂 本 三 郎	一 辨護士	齋 藤 隆 夫
一 辨護士	岸 小 三 郎	一 辨護士	平 田 讓 衛
一 辨護士	關 戶 寅 松	一 判 事	瀨 端 善 一 郎
一 判 事	鈴 木 喜 三 郎	一 判 事	杉 田 金 之 助

二 各科課目一覽 明治三十一年十月

法學部 法律科 行政科 第一年級



破産法	2	全上	2	三十二年十一月 松岡義正	鈴木宗言
國際私法	4 政學 2 共通	全上	2		有賀長雄
國際公法	2 政學 2 共通	全上	2		野澤武之助
公債論(行政科)	2	全上	2		天野爲之
行政法	2 政學 2 共通	全上	2	(朱)	織田一
法律哲學	2	全上	2	五月以降 吉田清致	松本文三郎
行政法	2 政學 2 共通	全上	2		美濃部達吉
歲計線(行政科)	1 共通	全上	1		添田壽一

計 法律 二十五時間 法 二十三時間  
行政 二十八時間 行 二十六時間

木 東京都公文書館所蔵

明治三十一年

東京府知事宛御届

私立東京専門學校

(九) 明治三十二年八月より明治三十三年七月

1 『早稲田学報』三十号所載 明治三十二年八月二十八日刊  
東京専門學校學生募集

◎政學部 (略)

◎法學部 〔法律科第一、二年級第二、二年級前期  
行政科第一、二年級第二、二年級前期〕

本學部は専ら新法典の法理を研究せしめ法學通論民法商法憲法行政法刑法訴訟法非訟事件手續法破産法法例國籍法國際法羅馬法法律哲學等邦語を以て教授す其講師は鳩山富井穂積戸水與田今村本田古賀石渡掛下朝倉原平沼小山鈴木宮田玉木豐嶋羽生牧野松岡常松野澤杉田山口毛戸等の博士學士其他専門家を擔任す又擬律裁判等によりて實地の練磨をなさしむ●行政科は以上の外に經濟財政の二課を加ふ乃ち法學部には高等文官判檢事辯護士等の受験諸課目等悉く備はる

◎文學部 (略)

●來九月五日 午前 入學試驗〔甲乙に分ち乙種は徵兵猶豫〕及び上級編入試驗を執行す志願者は前日迄に願書及び履歷書を差出すべし●改正規則入用の向は貳錢郵券相添へ申込まるべし

明治三十二年八月

東京牛込早稲田 私立東京専門學校

2 早稲田記事(明治三十二年八月調)

◎東京専門學校各學部改善

本校は年々學課に改善を施し講師を増聘せるが來る九月よりは(中略)法學部は新に民法施行法非訟事件手續法の講座を

置き、又擬律裁判は從來一名の講師出席して指導するに止まりしが次學年よりは數名の講師臨席し各自原被兩造又は判檢事辯護士等の衝に當り最も懇切に實地の練磨を爲さしむる組織に改めたり、(後略)

◎新に増聘したる講師は左の如し

(前略)

法學部

保險法 法學士玉木爲三郎、刑法各論 法學士常松英吉

親族法 法學士宮田四八、非訴事件 法學士三宅徳、業

商行爲 法學士青山衆司 其他

(後略)

口 各科課目一覽表(明治三十二年九月より)

法學部 法律科 第一年級

前期課目

後期

帝國憲法	3 政學	全上	4	副島義一
民法總則	2	全上	2	小山 溫
物權(占有以下)	2 前期試験簡	全上	2	鈴木喜三郎
物權(總則ヨリ)	2 題合併出題	全上	2	牧野菊之助
親族法	2	全上	4	宮田四八

早稲田大学法学部百年史資料

相續法 2 全上 2 牧野菊之助

刑法施行法 2 政學 全上 2 古賀廉造

民法事件手續法 2 全上 2 三宅徳業

裁判所構成法 1 全上 2 三木猪太郎

羅馬法(行政除) 2 全上 2 杉田金之助

論文 2 全上 2 菊池三九郎

民法叢話 1(隔週2時) 全上 2 富井政章

經濟原論(行政) 2 政學 全上 2 天野爲之

計 二十五時間(ローマ法、經濟ハ兩科ニ別ニ屬セルヲ以テナリ) 外ニ英語

計 二十七時間 外ニ英語

法學部 法律科 第二年級

債權(第三篇) 2 前期試験 全上 2 平沼驥一郎

契約債權(第二篇) 2 全上 2 三木猪太郎

債權(第三篇) 2 全上 2 杉田金之助

商法總則 1 前期ニテ 終了 全上 2 毛戸勝元

商會社法 2 全上 2 原嘉道

商行爲法 2 全上 2 青山衆司



物	親族	相續	刑法	民法	非訟事件	裁判所構成	羅馬文	論	經濟原論	支那語	民法叢話	法理學	債約	債權	商法總則	會社法	商行爲
權(總則ヨリ占有迄)	法	法	論	論	法	法	法(法律ノミ)	文	(行政)(政學共通)	(隨意)	(科外)	(正科)	權(第三編第一章)	權(第三編第二章)	權(第三編第一節)	權(第三編第三章)	
2	2	2	2	2	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1	2	2
											(月一回)			(後期)			
牧野菊之助	宮田四八	牧野菊之助	古賀廉造	三宅德業	鈴木喜三郎	戸水寛人	菊池三九郎	天野爲之	中島時之	富井政章	穂積陳重	平沼騏一郎	馬場愿治	杉田金之助	和仁眞吉	原嘉道	青山衆司
保險法(三年共通)	刑法各論	民事訴訟法(第一編第二編)	刑事訴訟法	國籍法(前期二時間ニテ終了ノ答)	財政論(行政)(政學共通)	論理學(隨意)	國法學(隨意)	法理學(正科)	民法叢話	民法各論	刑法實習	行政汎論(政學共通)	債權(第三編第二章第二節以下十四節迄)	手形法	海商法	民事訴訟法	破産法
2	2	4	2	1	2	1	2	2	1	2	1	2	3	3	2	2	1.5
									(月一回)								
青山衆司	手島兵次郎	今村信行	豐島直通	中村進午	宇都宮鼎	藤井健治郎	有賀長雄	穂積陳重	富井政章	岡田朝太郎	小山温	竹井耕一郎	羽生顯親	青山衆司	朝倉外茂鐵	岩田一郎	松岡義正

早稲田大学法学部百年史資料

國際公法	(政學共通)	3	中村進午	法理	穗積陳重
國際私法	(政學共通)	2	野澤武之助	行政各論	副島義一
財政學	(行政科) (政學共通)	2	松崎藏之助	民訴	今村信行
公債論	(政學共通) (行政)	1	天野爲之	民法實習	小山 溫
民事訴訟法	(強制執行)	1.5	松岡義正		
保險法	(二年共通)	2	青山衆司		
財政學	(政學二年) (行政)	2	宇都宮 鼎		
行政法論	(二年共通)	2	一木喜徳郎		
刑法論	(二年共通)	1	岡田朝太郎		

二、東京専門学校規則一覽  
 『早稲田學報臨時增刊第四十一號』(明治三十三年七月刊)所載  
 1 法學部課程表

民法	行政法	憲法	法學通論	法 律 科					
				日本憲法	法學通論	前	第	一	年
						後	期	二	年
						前	期	三	年
物(民法第一編) (民法第二編)	物(民法第一編) (民法第二編)	債權法 (民法第三編第	債權法 (民法第三編第	債權法 (民法第三編第	債權法 (民法第三編第	行(沉論、各論)法	行(沉論、各論)法		

國際私法	國際公法	國籍法	法例	裁判所構成法 (諸外國法對照說明)	破產法	訴訟事件 非訟事件	刑法	商法	
				裁判所構成法 (諸外國法對照說明)		民法施行法 非訟事件手續法	刑法汎論		親族法 (民法第四篇) 相續法 (民法第五篇)
				裁判所構成法 (諸外國法對照說明)		民法施行法 非訟事件手續法	刑法汎論		親族法 (民法第四篇) 相續法 (民法第五篇)
		國籍法	法例			刑事訴訟法 (第一篇乃至第五篇)	刑法各論	商法總則 (商法第一篇) 會社法 (商法第二篇) 商行為 (商法第三篇) 保險法 (商法第三篇第十章)	一章及第二章第一節第三章及第四章
		國籍法	法例			刑事訴訟法 (第一篇乃至第五篇)	刑法各論	商法總則 (商法第一篇) 會社法 (商法第二篇) 商行為 (商法第三篇) 保險法 (商法第三篇第十章)	一章及第二章第一節第三章及第四章
國際私法 (平時)	國際公法				破產法	民事訴訟法 (第六篇乃至第八篇)		手形法 (商法第四篇) 海商法 (商法第五篇)	第二章第二節乃至第十四節
國際私法 (戰時)	國際公法				破產法	民事訴訟法 (第六篇乃至第八篇)		手形法 (商法第四篇) 海商法 (商法第五篇)	第二章第二節乃至第十四節



法 例	裁 判 所 裁 成 法 所 法 對 照 諸 外 國 法 對 照 說 明	破 產 法	非 訴 訟 事 件 法	刑 法	商 法	民 法	行 政 法
			非 訴 訟 事 件 手 續 法	刑 法 汎 論		民 法 總 則 (民法第一篇) 物 權 法 (民法第二篇) 親 族 法 (民法第四篇) 相 續 法 (民法第五篇)	
			非 訴 訟 事 件 手 續 法	刑 法 汎 論		民 法 總 則 (民法第一篇) 物 權 法 (民法第二篇) 親 族 法 (民法第四篇) 相 續 法 (民法第五篇)	
法 例			刑 事 訴 訟 法 第 一 章 乃 至 第 五 章	刑 法 各 論	商 法 總 則 (商法第一篇) 會 社 法 (商法第二篇) 商 行 為 法 (商法第三篇) 保 險 法 (商法第三篇第 十章)	債 權 法 (民法第三篇第 一 章 及 第 二 章 第 一 節 第 三 章 及 第 四 章)	
法 例			刑 事 訴 訟 法 第 一 章 乃 至 第 五 章	刑 法 各 論	商 法 總 則 (商法第一篇) 會 社 法 (商法第二篇) 商 行 為 法 (商法第三篇) 保 險 法 (商法第三篇第 十章)	債 權 法 (民法第三篇第 一 章 及 第 二 章 第 一 節 第 三 章 及 第 四 章)	
		破 產 法	民 事 訴 訟 法 第 六 章 乃 至 第 八 章		手 形 法 (商法第四篇) 海 商 法 (商法第五篇)	債 權 法 (民法第三篇第 二 章 第 二 節 乃 至 第 十 四 節)	行 政 法 (汎論、各論)
		破 產 法	民 事 訴 訟 法 第 六 章 乃 至 第 八 章		手 形 法 (商法第四篇) 海 商 法 (商法第五篇)	債 權 法 (民法第三篇第 二 章 第 二 節 乃 至 第 十 四 節)	行 政 法 (汎論、各論)



一前期 金十二圓  
一後期 金十圓

三 本校得業生ニシテ再ビ入校シタル時ハ通常學費ノ半額ヲ納ムベシ

四 學期ノ始ニ於テ學費ヲ前納シ得ザル時ハ特ニ毎月金二圓ズツ分納ヲ許ス

但シ高等豫科ハ毎月金壹圓八十錢ヅ、分納スルヲ得  
五 學費ハ左ノ期限内ニ納ムベシ

一前期 九月十五日  
一後期 三月三日

一文學部各科第三年級第三期  
九月十五日

(以下略)

3 教師名簿

●法 學 部 (イロハ順)

法學博士	一木喜徳郎	法學士	石渡敏一
講 師	今村信行	法學博士	鳩山和夫
法學士	原 嘉道	法學士	馬場愿治
法學士	羽生顯親	法學博士	穂積陳重
法學博士	戸水寛人	法學博士	富井政章
法學士	豊島直通	法學士	奥田義人

特別課

法學博士	岡野敬次郎	法學士	織田 一
法學士	小山 溫	法學士	加藤正治
法律學士	掛下重次郎	文學士	高田早苗
法學士	玉木爲三郎	法學士	立作太郎
法學士	竹井耕一郎	法學士	副島義一
法學博士	添田壽一	文學士	土子金四郎
法學士	常松英吉	法學士	中村進午
法學士	野澤武之助	講 師	山口弘一
法學博士	松崎藏之助	法學士	牧野菊之助
法學士	松岡義正	法學士	毛戸勝元
文學士	藤井健治郎	法學士	福岡秀猪
講 師	兒島惟謙	法律學士	古賀廉造
法學博士	寺尾 亨	法學博士	有賀長雄
法學博士	天野爲之	法學士	朝倉外茂鐵
法學士	青山衆司	法學士	齋藤十一郎
講 師	菊池三九郎	法學士	宮田 四八
法學士	水野鍊太郎	法學士	三木猪太郎
法學士	三宅徳業	法學士	下村 宏
法學士	平沼麒一郎	法學士	杉田金之助
法學士	鈴木宗言	法學士	鈴木喜三郎

文學士	岡田正美	辯護士	小林豊太郎	辯護士	小山愛治
文學士	高田早苗	辯護士	坂本三郎	辯護士	齋藤隆夫
文學博士	坪内雄藏	文學博士	岸 小三郎	辯護士	關戸寅松
文學士	中川正信	文學博士	鈴木喜三郎	辯護士	杉田金之助
文學博士	天野爲之	文學博士		辯護士	
講師	島村瀧太郎				

各學部科外講師

法學部

法學博士	穂積陳重	法學博士	富井政章
法學博士	岡村輝彦	法學博士	梅謙次郎
法學士	朝倉外茂鐵	法學士	清水市太郎
法學士	ヘンリー、 オプ、アール チ、テリー	法學博士	戸木寛人
法學士	植村俊平	法學博士	野澤武之助
法學士	山田喜之助	法學博士	宮崎道三郎
法學博士	土方 寧	外數名	

法學部討論會委員

會長

辯護士	大西孝次郎	法學博士	鳩山和夫
辯護士	若林成昭	法學士	小山 溫
辯護士	上原鹿造	法學士	中村進午
辯護士	降旗熊次郎	法學士	牧野菊之助
		法學士	昆田文次郎

辯護士	小林豊太郎	辯護士	小山愛治
辯護士	坂本三郎	辯護士	齋藤隆夫
辯護士	岸 小三郎	辯護士	關戸寅松
辯護士	鈴木喜三郎	辯護士	杉田金之助

4 早稻田講義錄案内

本校講義錄

●講義錄發行ノ主旨

本校が多年政治經濟、法律、行政、文學等各科講義錄ヲ發行シ  
 廣ク校外生ニ頒ツ所以ノモノハ一ニ建學ノ本旨タル高等學術ノ  
 普及、國民教育ノ發達ヲ企圖センガ爲ナリ。抑モ本校ガ校外有  
 志ノ爲ニ學問普及ノ方案ヲ畫シ之ガ實行ニ努メルタルトコ、ニ  
 歳アリ。而シテ其方法モ亦一ニシテ足ラズ。即チ每歲各地方ニ  
 巡回講師ヲ派シ公衆ニ對シテ學術上ノ講話ヲ爲サシメ或ハ本校  
 ニ關係有セル博士、學士ニ依頼シテ歐米諸大家ノ名著書ヲ翻譯  
 シ或ハ多年研鑽ノ結果ニ成レル大著述ヲ出版シ、早稻田叢書  
 ノ名ヲ以テ廣ク公衆ニ頒チ、又ハ社會ノ各部面ニ適合スベキ諸  
 種ノ學術雜誌ヲ發行シテ人心ノ開發ニ勉ムル等皆此目的ヲ貫カ  
 ンガ爲ノ方便ニ外ナラズ。而シテ講義錄ノ發行ハ實ニ本校ガ學  
 問普及ノ最モ重要ナル一手段トシテ特ニ重キヲ置クトコロナ  
 リ。左レバ其掲載課目ノ如キモ時局ノ變遷ト校内學課ノ改正ト

ニ件ヒ、歳多ノ改良ヲ施シ所謂秩序的進歩ヲ爲シ來リタルハ人ノ知ルトコロニシテ、此點ニ於テ世間幾多ノ講義録中優ニ頭角ヲ現ハシツ、アルモ亦世人ノ認ムルトコロナルベシ。隨テ

### ●講義録ノ現況

亦頗ル見ルベキモノアリ。抑モ本校ガ始メテ講義録ヲ發行シテ通信教授ノ途ヲ開キタルハ去ル明治十九年ニ在リ。爾來其ノ發達頗ル顯著ニ今ヤ日本全國、臺灣新領土ハ勿論支那、朝鮮其他各地ニ散在セル校外生ハ、既ニ業ヲ卒ヘタル者、現ニ修學中ノ者ヲ合セテ其數十五萬ヲ超ユルニ至レリ。而シテ此等全國ニ普子キ

### ●校外生ノ成績

ニ就テハ素ヨリ詳細ノ事ヲ知ルベカラズト雖モ、其多數ハ講義録ニ依テ學ビ得タル智識ヲ政治上、實業上、教育上其他百般ノ業務ノ上ニ於テ利用シツ、アルハ其卒業後ト雖モ尙ホ本校トノ消息ヲ絶タズ、屢々通信ヲ以テ質疑ヲ寄セ致々トシテ研究ノ念ヲ絶タザルヲ見テ以テ之ヲ知ルベク、就中校外生規則第十條ニ依リ校内生ニ轉ジタル者ノ中ニハ其ノ成績卓抜ナル者尠ナカラズ、其本校ヲ卒業シテ社會ニ出ダタル後優ニ頭角ヲ表ハシタル者亦頗ル多シ。又以テ通信教育ナルモノガ單ニ形式的教育ニ止ラズ、實効尠カラザルヲ證スルニ足ルベシ。

本校ガ通信教育ノ必要ヲ認メ、多年之ヲ實行シテ好成绩ヲ得タ

ルコト實ニ以上述ブルガ如シ。今ヤ我邦、内ニ在テハ改正條約ノ實施ト共ニ内外人居ヲ同フシ社會益々複雑ナラントシ、之ヲ外ニシテハ一葦水ヲ距ツルノ隣邦端ナク時難ヲ醸ヘテ東亞ノ風雲頗ル急ナルノ時、吾人ハ國民教育ノ必要ヲ思フコト愈々切ナリ。蓋シ一國ノ隆替ハ國民智識ノ發達如何ニ繫ル。是レ知者ヲ俟ズシテ知ルヘキノ理、即チ本校講義録ハ茲ニ學期ノ更始ニ際シ、時運ノ趨向ト共ニ一大刷新ヲ試ムベキノ時ニ達セルナリ。此ニ於テカ來十月初旬ヲ以テ發行スル

### ●第三十四年度講義錄

ハ學課ヲ撰擇シ講師ヲ增聘シテ改善ノ實ヲ擧グルト同時ニ、左ノ事項ヲ計畫シテ之レガ實行ヲ期スベシ。

### 法律科講義錄

改正條約ノ實施ト共ニ諸種ノ律令着々改正セラレ、百般ノ法典漸ク完備ニ赴カントスルノ今日、法律學ノ必要ハ當ニ職ヲ之ニ採ル者ノミニ止ラズ、苟クモ國民ノ本分ヲ知ル者決シテ之レガ研究ヲ忽セニスベキニアラズ。本講義録載スル所、民法商法ヲ始メトシ、刑法、民事訴訟法、破産法、裁判所構成法及ビ憲法、行政法、國際法ニ至ルマデ細大餘スナク受持講師ニハ法典調査委員タル博士、學士ヲ始メ朝野知名ノ士ヲ網羅シ各自得意ノ學課ヲ講説スルコト頗ル細密ナリ。

### 行政科講義錄

是レ法律科講義録ニ記述スル課目ニ經濟、財政ノ學課ヲ加ヘタルモノ。高等、普通ノ文官試験ニ應ゼントスル者、行政官、自治躰ノ役員、銀行會社員等ニハ無上ノ好伴侶タルヲ失ハズ。講師亦専門ノ大家ヲ以テ之ニ充ツ。

講義録研究ノ順序ヲ教示スル事

各科専門ノ學課ヲ修ムルニハ須ク其順序、階梯ヲ詳カニセザルベカラズ。則チ先ヅ講義録研究ノ方法ヲ掲ゲ校外生ヲシテ其先後緩急ヲ過ツガ如キ憂ナカラシム。

各科講義録ニ參考書案内欄ヲ設クル事

講義録ヲ離レテ別ニ研究ヲ爲サントスル者若クハ講義録ヲ修メテ更ニ深ク研究スル所アラントスル者ノ爲特ニ本欄ヲ設ケ、先ヅ各科専門ノ學術ヲ研究スルノ順序方法等ヲ示シ、之ガ參考ニ値スベキ東西ノ良書ヲ紹介シ、其梗概ヲ示シ批評ヲ加フル。世ノ攻學者ハ之ニ依テ無ニノ指南者ヲ得ベク、汗牛雷ナラザル群書中之ニ由テヨク玉石ヲ分ツヲ得ベシ。

毎月三回ノ發行ヲ改メテ二回トナシ大ニ紙數ヲ増加スル事

發行度數ノ頻繁ニシテ掲載課目ノ屢々斷切スルハ通讀ノ上ニ不便尠シトセズ。寧ロ發行度數ヲ減ズルモ、紙數ヲ増加スルノ讀者ノ修業ニ利アルヲ思ヒ、且ツ次項ニ示スガ如ク二ヶ年間ニ他ノ講義録ガ三ヶ年ヲ費スベキ諸課目ヲ掲載スルノ必要上一層紙數増加ノ便宜ナルヲ思フ。依テ從來三回ノ發行ヲ二

回ニ改メ總計ニ於テ數十頁ノ紙數ヲ増加スベシ。  
卒業ノ期ヲ短縮シテ二ヶ年トナス事

學期ノ短縮ハ本年度ヨリ既ニ之ヲ實行セリト雖モ、或ハ之ガ事由ヲ詳ニセザル者アランヲ恐レ特ニ茲ニ一言スベシ。抑モ從何三ヶ年ヲ以テ卒業ノ期トシタルハ本校々内ノ修學年限ニ基キテ定メタルモノナリト雖モ、數年來ノ經驗ニ憑ルニ第三年級ニ至ルマデ修業ヲ繼續スル者比較的ニ多カラズ。コレ業務多端ノ校外生ニトリテハ三ヶ年制度ノ不便ナル徵證ナラズンベアラズ。然レトモ濫リニ課目ヲ減少スルハ修學者ノ利益ヲ計ルノ途ニアラザルヲ以テ之ニ應ズルニ紙數ノ増加ヲ以テシ二ヶ年ノ短歲月ヲ以テ三ヶ年制度ニ勝ルノ効果ヲ擧ケンコトヲ企圖セルナリ。

又本校講義録ノ特色トシテ從來實施セル諸般ノ設備ハ益々奮テ之カ勵行ヲ怠ラザルベシ。即チ

講義ノ文章ハ平易明瞭ヲ第一義トシ難解ノ憂ナカラシムベシ  
廣ク質疑ニ應ジ之ガ解答ヲ紙上ニ掲ゲテ一般讀者ニ示スベシ  
各科講義録ニ英語欄ヲ置キ英語英文ヲ活用スルノ術ヲ授クベシ  
新刊ノ書籍中特ニ參考ニ値スルモノヲ選ビテ之ヲ紹介スベシ  
毎年一回懸賞論文ヲ募集シ當選者ニハ月謝免除ノ特典ヲ與フベシ

講義錄攻修濟ノ者ハ通信ヲ以テ學力ヲ試驗シ卒業證書ヲ與フベシ

卒業試験ニ及第シタルモノ校内生タラントスル時ハ特ニ上級ニ編入スベシ

右ノ外講義錄掲載ノ課目ハ本校教科目ト大同小異ナルヲ以テ特ニ之ヲ詳記セズ。前段掲ゲタル本校學課表ヲ参照シテ以テ之ヲ知ルベシ。巨細ノ事實ハ來九月上旬ヲ以テ發行スル講義錄ノ栞ニ詳ナリ。希望者ニハ無代價ヲ以テ之ヲ頒ツベシ。

三十四年度各科講義錄ハ來十月初旬ヲ以テ第一號ヲ發行スベシ

### 東京専門學校校外生規則摘要

第一條 本校ハ政治經濟、法律、行政、文學等學術ノ發達普及ヲ企圖シ登校シテ親シク講義ヲ聽聞スルコト能ハザル者ノ爲メニ講義錄ヲ發行ス之ニ依リテ修學スル者ヲ校外生トス

第二條 校外生ハ入學試験ヲ要セズ何時ニテモ入學スルヲ許ス但シ左ノ雛形ニ從ヒ束脩及月謝ヲ添ヘ申込ムベシ

### 校外生入學證(用紙ハ半紙四ツ切)

印紙

私儀今般 科第 部へ入學相願候上ハ御校校外生規則固ク遵守可致候仍テ入學證如斯候也

宿所族籍

年月日

姓

名

東京専門學校御中

第三條 校外生ノ在學年限ハ二ケ年トシ其學年ハ十月ニ初メ翌

年九月ニ終ルモノトス

第六條 校外生ニシテ滿二學年順次講修ヲ終ヘタル者其卒業證書ヲ受ケント欲スル片ハ試験ノ上之ヲ與フベシ但試験期日及手續ハ終ニ講義錄ニ廣告ス第七條校外生卒業試験ハ通信試験トシ申込ニ依リ試験問題ヲ本人ニ送致シ答案ヲ徵スルモノトス

第八條 卒業試験ニ及第シタル者ハ本校准校友トシ永ク本校トノ關係ヲ保タシム

第九條 二學年ノ講修ヲ終リタルモノハ其希望ニ依リ修業證書ヲ授與スベシ

第十條 政治經濟、法律、行政科校外生ニシテ校内生ヘ轉ゼントスル者ハ學力ニ應ジ第一年度又ハ第二年度ニ編入シ校外生

卒業證書ヲ有スル者ハ無試験ニテ第二年級へ編入スベシ

第十一條 文學科校外生ハ校内ニ年級以上ニ編入ヲ許サズト雖モ其卒業證書ヲ有シ文學部各科第一年級ニ入學ヲ希望スル者ハ特ニ英語ノミヲ試験ノ上編入スベシ

第十三條 校外生ニ對シ毎年一回懸賞問題ヲ出シ論文ヲ起草セシメ優等者ヲ左ノ三等ニ分チ月謝ヲ免除シ且其論文ハ本講義錄又ハ本校刊行ノ各雜誌ニ掲載スベシ

甲賞一ケ年分月謝 乙賞六ケ月分月謝 丙賞三ケ月分月謝  
第十四條 校外生ハ本校内ニ於テ施行スル科外講義及演說討論等ヲ傍聽シ且何時ニテモ本校教場ヲ參觀スルコトヲ得但シ校外生證票ヲ携帯スベシ

第十五條 講義錄ヲ分チテ四種トシ政治經濟科校外生ノ爲ニ發兌スルモノヲ政治經濟科講義ト稱シ法律科校外生ノ爲ニ發兌スルモノヲ法律科講義ト稱シ行政科校外生ノ爲ニ發兌スルモノヲ行政科講義ト稱シ文學科校外生ノ爲ニ發兌スルモノヲ文學科講義ト稱ス

第十九條 校外生タラント欲スル者ハ束脩金五十錢ヲ納ムベシ但シ數科ヲ併修スルモノ之ヲ倍スルヲ要セズ

第二十條 本校々友准校友ノ紹介ヲ得テ入學スル者及軍人(現役)ハ特ニ其束脩ヲ免除ス

第二十一條 校外生ハ各學科一部毎八月謝金五十錢ヲ納ムベシ

第二十二條 一時ニ三ケ月分以上ノ月謝ヲ納ムル者ハ特ニ左ノ割合ヲ以テ講義錄ヲ配付スベシ但シ各科一部毎ニ此ノ割合ヲ以テ納ムルモノトス

一 三ケ月分金壹圓四拾錢 一 六ケ月分金貳圓七拾五錢  
一 壹ケ年分金五圓五拾錢

第二十三條 月謝ハ必ズ前月中ニ納ムベシ但シ前納セザルモノニハ講義錄ノ配付ヲ停止ス

第二十四條 束脩并ニ月謝ハ郵便切手ヲ以テ納ムルコトヲ許サズ

第二十五條 束脩并ニ月謝ヲ爲替又ハ通運便ニテ拂込ムモノハ受取人ヲ東京牛込早稻田東京專門學校幹事ト認メ又爲替拂渡局東京牛込支局宛ニテ納ムベシ

第三十條 講義錄中ニ疑問アル片ハ通信ヲ以テ質問スルコトヲ得但シ質問書ハ一課目毎ニ別紙ニ認メ且ツ講義錄ノ號數並ニ頁數ヲ示スベシ

第三十二條 質問ノ有益ナリト認ムルモノハ其答案ヲ講義錄ニ掲載シ各自ノ參考ニ供スベシ

(十) 明治三四年

法律科

第一學年

民法總則	2	小山 溫	刑法各論	2	岡田朝太郎
親族法	2	牧野菊之助	刑事訴訟法	2	豐島直通
相續法	2	宮田四八	國籍法	2	中村進午
刑法總論	2	岡田朝太郎	債權法 <small>(第三篇第三章 事務管理、不法行為)</small>	2	杉田金之助
憲法	2	副島義一	法學實習	1	小山 溫
物權法	2	鈴木喜三郎	民法叢話	1	富井政章
物權法	2	牧野菊之助	民事訴訟法 <small>(第一篇)</small>	3	今村 信行
ローマ法	2	戸水寛人	論理學 <small>(隨意科)</small>	1	
裁判所構成法	1	鈴木喜三郎	支那語 <small>(隨意科)</small>	3	
論文	2	菊地三九郎	英 語 <small>(隨意科)</small>	7	
民法叢話	3	富井政章			
支那語 <small>(隨意科)</small>			第三學年		
英 語 <small>(隨意科)</small>	7		行政各論	2	竹井耕一郎
			行政汎論	2	副島義一
第二學年			債權法 <small>(第三篇第二章 二節以下)</small>	2	仁井田益吉
債權法 <small>(民法三篇 第一章)</small>	2	平沼騏一郎	手形法	2	青山衆司
商法總則	1	青山衆司	海商法	2	朝倉外茂鐵
商行為	2	青山衆司	民事訴訟法	2	岩田 一郎
會社法	2	原 嘉道	民事訴訟法 <small>(行政執行)</small>	3	松岡義正
保險法	2	和仁貞吉	破産法	3	中村進午
債權法 <small>(第三篇第二章 一節契約總論)</small>	2	馬場愿治	國際公法	3	

國際私法 野澤武之助  
 法學實習 2 2 小山 溫  
 行政法論（科外） 一木喜徳郎  
 民法叢話 富井政章

（二） 明治三五年

大學部設置

本校ハ明治三十五年九月ヨリ早稲田大學ト改稱シ大學部ヲ開始ス

三十五年九月ヨリ本校部門ヲ大學部、專門部、高等豫科ノ種ニ分ケ大學部ニ政學科、法學科、文學科ノ三科ヲ設ケ專門部ニ政治科、法律科、和漢文學科、史學科ノ五科ヲ設ケ外ニ研究科ヲ置ク

（早稲田學報臨時增刊第五十五號）

學科課程

大學部法學科

學科	學年	第一 年	第二 年	第三 年
	國 法	國 法 學	物 權 法 <small>（講義、 獨佛又ハ 書佛原）</small>	行 政 法 <small>（獨佛 民法）</small>
	民 法	民 法 總 則、物 權 法、債 權 法、 債 權 法、		

外國語	法學實習及 訴訟演習	羅馬法及 法律哲學	國籍法及 法例	國際法	經濟學及 財政學	裁判所 構成法	訴訟法	破產法	商法
佛蘭西語	法學實習及 訴訟演習	羅馬法	法例及國籍法		經濟學（英原） 原理（書）	裁判所成構法	刑法汎論	刑法汎論	親族法、相續 法
西語	法學實習及 訴訟演習	法學實習		國際公法			刑事訴訟法、 民事訴訟法	破產法	商法總（講義、 英原書） 則 商行爲、保險法
西語	法學實習及 訴訟演習	法律哲學 <small>（獨佛又ハ英原書）</small>		國際公法（講義 獨佛又ハ英原書）			民事訴訟法	破產法	會社法、手形 法海商法、獨 佛商法（獨佛 原書）

授業時間ならびに擔任者

第一年

國 法 學	2
法 學 原 理 (テリイ英書)	2
ロ ー マ 法	2
民 法 總 則	2
物 權 法	2
物 權 法 (留置權以下)	2
債 權 總 則	3
親 族 法	2
相 續 法	2
刑 法 汎 論	2
經 濟 原 理 (ウォーカー英書)	2
法 學 實 習	1
第 一 外 國 語 (英語)	1
第 二 外 國 語 (獨語)	4
第 二 外 國 語 (佛語)	4

有賀長雄
杉田金之助
戸水寛人
小山 温
仁井田益太郎
牧野菊之助
平沼騏一郎
中村進午
宮田四八
岡田朝太郎
鹽澤昌貞
鈴木喜三郎
ホースウエル
〃
藤山治一
長田忠一

第一年

日本國憲法	3
民法總則	2
親族法	2
相續法	2
刑法汎論	2
物權法	2
物權法	2
ローマ法	2
裁判所構成法	1
論文	1
民法叢話	1
支那語 (隨意科)	3
英語 (隨意科)	7
債權法	3
商法總則	2
商行為	2
保險法	2
會社法	2

第二年

竹井耕一郎
小山 温
中村進午
宮田四八
岡田朝太郎
仁井田益太郎
牧野菊之助
戸水寛人
鈴木喜三郎
菊地三九郎
富井政章
平沼騏一郎
青山衆司
青山衆司
和仁眞吉
原 嘉道

專門部法律科

學科目、授業時間ならびに擔任者

早稲田大学法学部百年史資料

債權法 <small>（第三篇第二章） （節、契約總論）</small>	2	馬場 愿治	國際私法	2	山田三良 <small>（野澤武之助）</small>
債權法 <small>（第三篇第三章） （務管理、不法行為）</small>	2	杉田金之助	法學實習	2	小山 温
刑法各論	2	岡田朝太郎	公債論		宇都宮 鼎
民事訴訟法	4	今村信行	行政法論 <small>（科外）</small>		一木喜徳郎
刑事訴訟法	2	豐島直通			
國籍法	2	中村進午			
法學實習	1	鈴木喜三郎			
論理學 <small>（隨意科）</small>	1				
支那語 <small>（隨意科）</small>	3				
英語 <small>（隨意科）</small>	7				
第三年					
行政汎論	2	竹井耕一郎			
行政各論	2	副島義一 <small>（島田俊雄）</small>			
債權法 <small>（第三篇第二章） （二節以下）</small>	2	仁井田益太郎 <small>（小山 通）</small>			
手形法	2	青山衆司			
海商法	2	朝倉外茂鐵 <small>（柳川勝一）</small>			
民事訴訟法	2	山田 一郎			
民事訴訟法 <small>（強制執行）、破産法</small>	2	松岡義正			
國際公法	3	中村進午 <small>（高橋作徳）</small>			